

J O F I 東京通信

第 11 号 2023 年(令和 5 年)1 月 9 日発行
<https://jofi-tokyo.org/>

東京都釣りインストラクター連絡機構会報誌

目次

コロナ禍を振り返って 3.....	1
会長 鈴木 伸一	
「私の健康法」今年 83 歳になりました.....	3
國信 悠久	
第 1 回 Osyorokoma Challenge Cup in SARUGAWA.....	3
粕谷 正光	
隅田川のへち釣り.....	5
萩原 一登	
2022 年のコロナ禍の釣り.....	6
新井 勝之	
矢口高雄先生の想いは.....	7
宗圓 正義	
越中島釣友会創立 20 周年記念第 21 回大会報告.....	10
木津 光永	
これまでの釣りを振り返って.....	10
林 健二	
海のボート釣り～魅力と留意点～.....	11
藤倉 聡	
釣りを始めてみよう.....	14
本村 慧介	
初めてのイトウ釣り.....	16
鈴木 等	
釣り競技のオリンピックのような大会.....	17
石村 美佐子	
これからの内水面漁場管理主体は“漁業協同組合”という名称でいいのか?.....	19
石井 利明	
2022 年度活動実績.....	19
編集後記.....	20

コロナ禍を振り返って 3

会長 鈴木 伸一

いつまで経っても一向に収束の兆しをみせてくれないコロナ禍、先の 2 年ばかりは公式イベントに関してはことごとく中止を余儀なくされました。このままでは JOFI としての活動はままならず、年初、今年は定期総会を始め JOFI 東京主催の活動に関しては、COVID-19 感染拡大防止対策を講じた上で極力実施することで方向転換を図ることとしました。

ところが、今年も 2 月に第 6 波、9 月には第 7 波の国内感染者数ピークを迎え、治ってきたかと思えば、11 月に入り再び国内感染者数が増加傾向に転じました。次から次へと新たな新型コロナウイルスの変異株が猛威を振るうようで、専門家のシミュレーションでは年明けにも第 8 波のピーク到来とのことのようです。そのため、定期総会は遅まきながら第 6 波が収束した頃合いを見計らっての実施、若洲海浜公園クリーンアップ作戦に関しては感染状況に応じて一般参加者の応募を中止する、JOFI 東京主催のイベントでは一般参加者の数を制限する、JOFI 内部での情報のやりとりはメール、LINE を介して等、その時々への対応に追われた試行錯誤の一年でした。

しながらその甲斐あってか、今まで見えなかったこともいろいろと見えてきました。まずは、コロナ禍の合間を縫って、久しぶりに開催できた若洲シーサイドグループ、日釣振東京支部主催「親の子釣り教室」、「ファミリー釣り教室」、今回はいずれも参加者を大幅に絞って 30 名規模での実施でした。例年ですと 2～3 家族に対して 1 釣りインストラクターのサポートとしていましたが、参加者を絞ると 1 家族に対して 1 釣りインストラクターとほぼマンツーマン形式のサポートが可能となります。そのため、参加者にとっては木目細かなサポートを受けることができたようで、イベント終了後にも参加者からお礼の挨拶を受けたほどでした。これは、以下の通り「アウトドアフィッシングスクール in 若洲」でも言えています。



イベントの規模を縮小すれば、一度に動員する釣りインストラクターの数も大幅に削減でき、逆にイベントの回数を増やすことにより釣りインストラクター側も参加すべきイベントへの自由度が上がり、よりイベントに参加し易くなるのではないのでしょうか？ このことは、次年度以降の活動予定立案の際にも反映させたいと思っています。

また、今年度は練馬区からの委託講座も 2 件実施できました(しかも JOFI 東京単独主催は初めての経験です。)。行政からの委託事業ではやるべきことが非常に多く、事業説明会への参加、申請が受理され決定通知書が届くと情報セキュリティに関する事前学習、開設に関する書類作りだけでも 4 件、イベント実施前には実施計画書、学校配布用のチラシ、会費領収書、区報の原稿作成、傷害保険加入など、実施後には実施報告書、取得情報の提出・不所持証明書作成、アンケートのとりまとめなど多岐にわたっています。

区報の原稿作成、学校へのチラシ作成などタイムリーに行わなければならないものも多く、慣れないと結構辛いものもあります(良い勉強にもなりました)。そして、いざ単独主催のイベントを実施するとなると、今までは他人任せであった面もすべて我々自身の責任となると言うことです。

折良く山岳ガイドを利用した北海道の釣り経験談を聞いたばかりでしたので、即公益社団法人日本山岳ガイド協会から発行されている教本を 3 冊購入し、山岳ガイドとしては一番レベルの低い「自然ガイドステージ I (自然ガイド単独資格者は、ピークハントが主たる目的となる登山ガイド業務は、行ってはならない)」レベルの知識取得を試みました。いろいろと得られるところがありました。特に安全面に関しては考え直さねばと思っています。大げさと言われるかもしれませんが、我々の活動も人の命を預かるという意識は重要だと再認識させられた次第で。とりあえず、救命ロープ(事前に動作確認済み)、ファーストエイドキット、熱中症対策グッズだけは用意して以下の委託講座に臨みました。



今後、当連絡機構においても、山岳ガイド(自然ガイドステージ I)資格取得を目指す方への応援、東京消防庁などが開講している救命講習受講などについて検討していきたいと思います。

話は変わりますが、ここ 50 年ばかりで釣り具の進化に

はめまぐるしいものがあります。特に釣り竿、釣り糸、リールの進化は特筆もので、以前はとても釣りの対象とはならなかったような大物がいとも簡単に釣り上げられるようになりました。いくら無理をしても、釣り竿は折れることなく、釣り糸は切れることなく、魚にとっては堪ったものではありません。さらに、電動リールを使用するのであれば、誘いからフッキング、取り込みに至るまですべて名手の技術がプログラミングされており、釣り人の出番はないようなものです。

私にとって、釣りとは魚と遊んでもらうようなもので、釣り人と魚が対等、または魚の方が優位な関係にあるべきだと思っています。私は主にフライフィッシングを嗜んでいますが、このところリールを使用しないテンカラに熱が上がるようになってきました。なぜならば、リールを使ってしまったのであれば魚より釣人が優位な関係となってしまう、魚の引きに応じてラインの出し入れに自由度が得られることになります。

当然のこと、大型のニジマス狙いにはリールを使用しないためそれなりの強度のある竿と強い釣り糸が必要です。また、在来ヤマメやイワナ狙いには現在市販されている竿では必要以上の強度が備わっているためハラハラ・ドキドキのスリリングな釣りはとても叶いません。

そんなことで、今年はお蔵入りになっていた二昔ばかり前のヘラ竿、コイ竿、ヤマベ竿を改造(と言ってもグリップを装着、せいぜい穂先、穂持ちの交換くらいですが)して、大型ニジマス狙いのテンカラ竿、体長 30cm くらいまでのヤマメやイワナ狙いの繊細なテンカラ竿に 6 本ばかり作り替えてみました。こんなことができるのも、コロナ渦で少しは自分の時間が持てたからかもしれません。

まだ、小菅川冬期釣り場やリヴァースポット早戸でしかテストしていませんが、ヘラ竿改造版はよく曲がってくれる割には体長 50cm 前後のマスに対しても力不足を感じさせません。それどころか、マスの動きも心なしか大人しくなってしまうようでダメージを最小限に抑えられそうです。残念ながらコイ竿改造版では大型マスとの出会いは未だありません。

ヤマベ竿改造版ではしなやか故、ラインもフロロの 2 号から 1.5 号と極めて軽いものが気持ちよくキャストできます。管理釣り場のイワナでしたが、体長 40cm ほどのものが掛かた際には、それは心地よい糸鳴りはするは、満月に撓った竿を片手に川を上へ下へと大騒ぎ。それはハラハラ・ドキドキ連続のスリリングな釣りを味わうことができました。久しぶりに、私の釣りの原点に戻ったかのような、爽やかな気分を味わうことができました。



上 2 本がヘラ竿改造版、下 1 本がコイ竿改造版



ヤマベ竿改造版



小菅川冬期釣り場で釣れたイワナ
(上図ヤマベ竿改造版の一番下の竿を使用)

「私の健康法」今年 83 歳になりました

國信 悠久

1. 庭に植えている約 20 種類の植木、約 40 種類の花の手入れ。草むしり、掃除。木斛、金木犀、楠、竹、椿、カクレミノ、サルスベリ等、ランタン、ギボシ、ヒューケラ、パンジー、ゼラニウム等
2. 毎日、午前と午後の 2 回、自転車で買い物、池袋～新宿をサイクリング。
3. 洗濯、物干し、納屋の整理、掃除などで 1 日 10 回～20 回、2 階への階段の上り下り。

以上です。

第 1 回 Osyorokoma Challenge Cup in SARUGAWA

粕谷 正光

開催地 SAPPORO - HOKKAIDO

開催日 2022 年 7 月 6 日 9:00～12:00

大会規則 FIPS 世界大会規則に準じる。

ローカル規則

対象魚 OSYOROKOMA

試合数 1 試合

新千歳から片道 2 時間半。

9 時からの開催となり、午前中 3 時間の 1 試合に変更されました。

水温 12 度

優勝者 osyorokoma を 11 本獲得。最大 32cm。

優勝者は前半 1.5 時間で当たりが 1～2 回と苦戦を強いられましたが、パターンを見つけた後半には、怒涛の追い上げで、ダブルヒット有りのヒットパターンを確定しました。

優勝者の喜びの声。

“これでこのパターンは一個¥5,000 で売れるな”とのこと。

因みに第一回という事もあり、参加者一名。

大会前日に空港内のホテルに泊り込み、スーツケースに詰め込んだ釣り道具を取り出して、明日の準備をします。早い夕食を取り、早めの就寝。

早朝 5 時に掛けた目覚ましの世話になる事も無く、目覚めた朝。6 時に空港横の道路にお迎えの車へ乗り込みます。

初めての川で、初めてのオシヨロコマです。ここは北海道。熊対策を含めて、ガイド氏が必要です。今回の

ガイド氏とは初対面です。専門は山岳ガイドで、釣り様式はルアーとの事。予約の段階から承知して居ります。釣り場に連れて行って来て、熊を見張ってくれればそれで十分です。前日まで山小屋の管理をしていて、こちらに向かう途中で川の様子を観てくれたそうです。若そうだが、寡黙で私と気が合いそうです。

話題は熊から。取り敢えず、熊ベルは持って来ていますが、ベルの音で相手の発する警告音を聴き逃す可能性を避ける為に、着けずに川に入る事を進められました。兎に角、何処にでも熊は居るそうですから。ガイド氏によると、熊と鹿の嗅ぎ分けが出来るそうです。頼みますよ。

新千歳から片道 2 時間半で、日高山脈の山奥に入った沙流川です。

綺麗なピンクの花とミヤマカラスアゲハのお出迎えです。水は透き通って、玉砂利を敷いたような河床です。



これだけで気が安まります。早速、ウェーダーと沢タビを履いて、ロッドには 3 本鉤のチェコニフ仕掛けをセットしました。9 時に試合開始でいきなり、瀬尻の深みに魚影が映ります。何時もの黒を基調としたパターンにソーヤニフとキラバグ。数回流しても、全く当たりがありません。少し流れが早いかな？早瀬は透明で物陰になる石もありません。その後、ざっと付近を見渡しても、魚影は見当たりません。岩魚属のオシヨロコマはもう少し流れの緩い深みかしらと思いつつ上流へと進みます。

早瀬が壁にぶつかり、少し掘れた深緑の淵に流し込みます。当たりが無いので、次々とパターンを変えていきます。

岩魚属好みの色物に替えながら、3 日前に巻いた、イタリア製のアブドメンにコツンと当たりが有り、合わせに乗りますが数秒で外れました。残念。プレッシャーは続きますが反応有りに勇気凛々。

2~3回流すもその後の反応が止まったので場所を替えます。

次の深みに流してみれば、やっと初ヒットです。20cm 程のオシヨロコマです。さてさて何を食べているのかしら？



胃の中を覗かせて貰いましたが、ほとんど空っぽです。唯一出て来たのが、12mm 程のイモムシ。凶鑑と見比べてみるとヒメクロバの幼虫か？なんとなくイタリアンアブドメインデザインパターンに似ている様な・・・？

いずれにしても、頭を過った、空振りの恐怖から、この 1 本で落ちつきました。

岸から突き出た大岩に当たる大きなヨレに、同じパターンを流し込むと、早速、次が出ました。次から次。

全て下から 2 番目のドロッパーに着けた同じパターンです。こうなったら、ボトムも同じパターンに替えてみますか。同じ重さのタングステンニフに。あらら、ドロッパーに掛かったオシヨロコマを追いかけて、仲間が助けに来ました。とうとう、ダブルヒットです。この後も何回も同じ状況ですが、取り込み前にはずれ、一本ずつ。時間も終盤に来て、「後 2 本で上がります。」あと二本だなんて、余裕が出て来て。はい、「つ抜け」。コントローラ役のガイド氏に「振ってみますか？」と竿を渡すと、喜んで試し振りをします。数回振って帰って来たロッドを最後の振りで、何だか？大きな手応えです。やり取りの末に上がって来たのは、尺上の 32cm の精悍な顔をした綺麗なオシヨロコマでした。



はい、12時ジャスト、ここで試合終了。
河原でコンビニ弁当、サンドイッチとオニギリを食べながら、余韻に浸って、初めてのオショロコマは大満足です。

対戦相手として申し分の無いネイティブな自然児。
出来過ぎですか？イヤイヤ、一歩下がって控えて、選手に自分でポイントを探し当てたかの如く満足を与える。こんな状況を作ってくれた、ガイド氏に大感謝です。

昼食後はサラッと流しながら車を止めた場所に戻り帰還しました。

宿から、往復 5 時間。

釣行 3 時間。

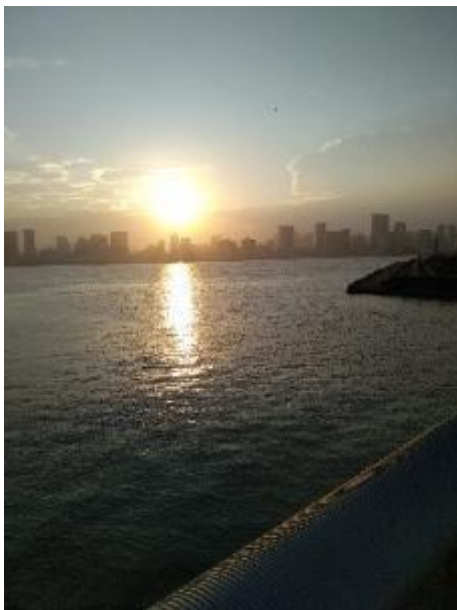
新千歳から羽田 1.5 時間。

羽田から我が家 3 時間。

隅田川のへち釣り

萩原 一登

休日の夕方はへち竿と網をもって、自転車で隅田川に黒鯛釣り。



「隅田川」と聞けば皆さんは何を思い浮かべますか？浅草、屋形船、隅田川花火大会、など人によってイメージは様々だと思います。私は江東区に住む前、『都市に流れる汚い川』程度にしか思っておらず、隅田川でへち釣りをすることなんて考えたことはありませんでした。ルアーを使ったシーバスフィッシングは以前からテレビやネットで放映され、私もチャレンジしましたが、テレビと違ってなかなか釣ることができなかつたため、わざわざ車で千葉の遠方まで行き、釣りをしていました。



隅田川には隅田川テラスという歩道が整備され、多くの人が散歩を楽しんでいます。私も近くに寄り住んでから、運動としてよく散歩をしています。釣り好きな私は、魚がいるかいないか見てしまいます。ある日、いつもと同じように見てみると、なんと、黒鯛がへちにたくさんいるではありませんか……。

「これをどうにかして釣りたい。」そのように思った私は、その後釣り方を研究しました。当時私はルアー中心の魚釣りをしていたのですが、ルアー釣りではなかなか釣ることができませんでした。そして何より昼夜問わず多くの歩行者がいるため投げ釣りは危険だという事もあり、止めました。

ある時、実家に帰ると、父(故人)と釣りの話をしました。父は当時既に病気にかかっていたので、共に釣りをしに行くことができませんでした。父は私にへちに使う太鼓リールを見せて、自分はもう使わないからあげるよ、と言いました。私はルアー釣り中心だったため、自分は使わないだろうと言ったのですが、父と話すうちにもしかしたら隅田川での黒鯛釣りに使うことができるのでは、と思いつきました。とりあえずやってみようということで自宅に帰った後すぐにネットでへち竿、道糸用のライン、ハリ、ガン玉を購入しました。

餌は何が良いか分からない為、とりあえず、青イソメを購入しました。翌週、隅田川に向かい、事前に観た黒鯛のへち釣りのYouTubeのビデオの見よう見まねで釣りをしました。すると、30分も経たずに当たりがあり、引き上げてみると竿が折れんばかりにになりました。太鼓リールはいつもつかっているスピニングリールと仕様が異なり、初めて使う私にとっては、なかなか引き上げるのが難しかったのですが、なんとか釣り上げる事ができました。引き上げてみると、黒鯛ではなく50センチクラスのシーバスでした。それから私は隅田川のへち釣りにハマってしまいました。



しかし、それ以降、シーバスや黒鯛を釣ることはできるのですが、釣れる確度としては 3 割、ポーズの時もあり、なかなか魚を釣ることができない状況が続きました。隅田川は川であります海に近い、単純に上流から下流へという流れではありません。

上げ潮だと下流から上流へと流れ、また逆に潮の具合や時間帯によっては上流から下流へのスピードが速く、餌の落とし方、流し方に注意する必要があります。釣りをするうちに、上げ潮や下げ潮によって餌の落としやすさ、流し方を調整する必要があるということが分かってきました。潮の具合によって調整をすることで釣れる割合は 3 割から 5 割くらいに上がったと思います。

そして最後に、釣果を上げる事ができるコツは餌の選び方です。私の経験では春の初めから夏の初めまでは青イソメ、夏はイガイ、秋は豆蟹がベストです。ちなみに、夏はイガイを使うため、ターゲットは黒鯛のみでシーバスは釣れません。そして冬になるとお休みシーズンになり、釣果は期待できません。ただ餌の選び方も難しく、春でもイガイが良かったり、夏でも時と場合によっては豆蟹が良かったりするので、一概には言えませんが……。おそらくは水温によるものかと考えていますが、まだ解明はできていません。

しかし、一番重要な要素は水質です。これは都市河川のアングララーがいつも悩まされる事かもしれませんが、赤潮及び青潮の発生、また大雨が降ると釣果は期待できません。特に雨にはよく泣かされます。以前ある方にそのことで話を聞いたことがあります。人が密集している都心部の下水道は、元々許容量ギリギリまで水を流しています。ですが、そこに雨が降ると下水道が水でパンクしてしまいます。そこで、一気に隅田川に水を流しているのだというのです。そのため塩素が効いた水が大量に流れ魚が忌避してしまうため、雨の後は釣果が振るわないのです。

今年は週末ごとに雨が降ったことがあり、そのことが影響したのか今年の釣果はイマイチでした。



隅田川にタマズメにいくと、夕陽が沈んだ後は、都市の夜景を見ながらも釣りをすることができます。家の近くで気軽な釣りは、今や私のライフワークです。最近、釣りの後、隅田川テラスのゴミ拾いを始めました。たとえ釣果が振るわなくても、ゴミを拾うことで、満足感を得られるのです。



2022 年のコロナ禍の釣り

新井 勝之

今年も昨年に続きコロナ禍での釣りに関しての事ですが、ワクチン効果で感染しても症状が軽い人が多くなり、その分規制も緩み外へ出る機会も増えましたが、その反面軽い症状で感染に気付かない人や感染していても平気で外に出る者もいるようで、減ったかと思ったら又新たな変異株で急激に増えたりで完全には収まらないのには誰も苛正しく思っている事でしょう。

私自身、不覚にも感染してしまい、最初は 40 度近くの発熱が 2 日ほど続き、熱が下がると咳と痰に 1 週間位患いましたが 10 日間の自宅軟禁で回復しました。幸い味覚障害などの後遺症が残る症状が無いのは救いでした。

釣りに関しては余り行く機会が無く、好きなフライフィッシングも片手位の回数しか行けず、インストラクターの

友人からの沖釣りも余り行く機会が無かったですね！

そんな中でフライフィッシングで楽しめたのは10月に道東への釣行でした。当初は屈斜路湖でヒメマス釣りを予定していましたが、阿寒川やその周辺河川でドライフィッシングが楽しめそうだと現地の友人が進めたので、おすすめの場所へ急行し、釣り支度をしていると、先行者のルアーマンに釣果について聞くと、小型のヤマメやニジマスが多いなかでアメマスの40センチクラスが釣れたとの事でした。まずは上流へ行きました。色々ポイントで魚は連れましたが、やはり小型のニジマスやヤマメが歓迎してくれました。大型がいそうなポイントは釣り抜かれているのか全くと言っていいほど反応なしでした。上流側はあきらめて、入渓地点より下流側に移動し、釣り始めると先ほどとは違いいくらかサイズのいいのがぽつぽつと釣れ楽しめましたがもう少し手ごたえが有るのが釣れば良いなと思っていたら友人が30センチオーバーのアメマスを釣り、雰囲気が悪くなってきたのを感じた時に流心は流れが速く、手前は流れが弱く大きい沈み石が点在するポイントに少し離れた所より慎重にアプローチしフライを落とすと水面を割って出たニジマスがフライを抑え込むように啜って行き、すかさず合わせると流心付近の流れの中を逃げ回り4番ロッドをしならせ、ティップット7X(直径0.104ミリ)をはらはらしながら慎重にやり取りし、流れの緩い岸際に引き寄せ、写真を撮り、リリースしました。

その後もぽつぽつと釣れなしたが良い型は出ず、夕暮れが迫り納竿しました。



地元の友人が言うにはコロナ禍で釣り人が増え、どの場所も場荒れぎみで、中々良い釣りが出来ないとこぼしていました。

コロナ禍で釣り人が増えたのは川だけでなく、海釣りも同じでその分マナーの悪い釣り人の増加には閉口します。

魚も資源であり、自然環境を維持する上で重要な生き物でもあることを忘れて欲しいものです。

私の好きな溪流での釣りも自然の中に踏み入れて魚を虐めているので決して良い事をしてとは言えませんが、せめて優しくリリースし、自然に感謝する気持ち

を忘れないようにしたいと心がけていますが、海での船で沖釣りをするときにはなぜか食べる魚を釣る事にしか思えず、魚の扱いも雑になりがちです、小さい魚等はリリースしますが、多く釣れた時は捌くのが面倒なので同行者にあげるか納竿する事にしています。

新聞などの船宿の釣果情報に「〇〇魚が束単位釣れました」と大文字で掲載されていますがや禁漁期間を設けていますが、釣り具の発達や魚群探知機などハイテク機器の搭載船が当たり前では今の規制では甘いと感じています。

水産庁でも漁船による魚獲高は掴みやすいが、釣り人などの漁獲高は隠れ漁獲高として正確な量の把握が出来ず、最近になって釣り人からの捕獲数について「遊漁採捕等実態調査報告アプリ」を作り正確な数量を把握し、水産資源の管理保護に役立てると言っていますが、その前にもっと魚種による大きさや量について規制をすべきではないでしょうか。

日本人にとっては四方は海だし、河川も豊富にあり、魚類とは身近な食糧としか捉えていないのか釣りに対しての規制の理解が進まないのも理由の一つに思います。



上高地(環境保護区)を優雅に泳ぐイワナ

矢口高雄先生の想いは

宗圓 正義

釣り漫画の巨匠の先生の漫画に、思い出が残る言葉がある。

長年自分も釣りをしていて、多くの職業の方とお会いできます。自分の様なサラリーマンでも職業として1流な収入、評価を得れる方も釣り場では、一緒に楽しめ同行させていただけます。

多くの漫画家さん、スタッフ、プロダクションの方と釣りをさせていただきましたが、矢口先生とは、いづれと思っておりましたが叶わぬ夢に終わってしまいました。

郷土(東北、秋田だったかな)のお話し、釣りに対するご意見より、自然に対する先生の想いをお伺いしたいと思っておりました。

先程の多くの漫画家さん達が口を揃えて、風景描写力 NO1 と言っていました。作品をご覧になって下さい。

漫画家さんですよ。矢口先生は、風景画の画家の先生ではないのですよ。

なのに、連載されました子供向け『釣りキチ三平』は、先生は、子供達に何をお話しになりたかったのでしょうか。

余談ですが、私が月刊つり人に 35 年前連載させて頂きました原稿の 1 つに、表は荒磯、島裏は白い砂浜は、先生の題材からお借りした無名島であり、伊豆七島新島の羽伏浦の取材投稿です。その後、ダイワのテスターが利用されていますね。

漫画からしか、先生のご意見、想いを探れませんが、心に残っていますのは最終章に近い

- ・木化けの術
 - ・鬼手仏心
- の 2 点です。

木化けは釣りの技術で、誰でも、通過点として通りますが、小鷹網の章の、鬼手仏心は聞いた事ありませんし、釣りでなく、漁の範囲の内です。

なのにどうして、矢口先生はこのお話しを子供達に残されたのか？

自分が小学校の話なのに、今還暦過ぎても心に残っています。

鬼手仏心は、鬼手鬼心ではいけません
しかし、仏手仏心でもいけません

と書かれています。誠に良くわかります。その通りだと思います。

ただ問題点は、その境目です。

何処を境界にするか。キャッチ&リリースを全てなすなら、人間は食料として魚を得ないのか？

釣りの技術を磨き、魚を無制限に捕れるように追求するのが良いのか？

自分の考えは後者であります。釣り小僧として生きて来たからではありません。釣りは釣りで、その魚を得る追求だと思っています。これでは、矢口先生の鬼手鬼心になってしまいます。では、線引きの心はどこ？

釣り資源の枯渇から、JOFI 内部の釣りのマナー、ルール作りの話だけでなく、釣り業界全体でも、今 1 番の問題点であり、最重要課題になっています。

なのに、私の意見は違うのを JOFI ですので、矢口先生からお伺いした話しではありませんが、少し聞いて下さい。

オーストラリア、ニュージーランド地区、アメリカ、ヨーロッパ地区におけるのルール。

先ず、アメリカは建国 200 年少々の白人(イギリスをはじめ、ヨーロッパ移民の方)が聡明にお作りになりました。と先住民のインディアン。

次に、ヨーロッパ。肉を求めて西に(日が沈む側:月読尊?スキタイの祖?日本にハシの名が付く人がいます。橋?しかし、平安時代以前、日本語にハシの読み方はなかったそうです。パツ、ピユ、プウェ、ピエ、ポ。ハシだとパル?想像するにパルの方?聖徳太子の母君は穴穂部間人皇女、アナノベノハシヒト?パル人との間人?混血?どこの?パルの人?ペルシャ(トルコ)?魚を求めて東に向かったのが(日が昇る側:天照大神?)君達と言われる。(世界の人が知っている当たり前の事を我々日本人は知らない?元々は同じ1族?)弓月の国は、ローマの整備(道路、水路造り?にも関係があった話も出てくる。東に戻り、秦の始皇帝の時代のウル族?日本の秦さん?建設業の子孫?3000 年以前の国造りは、国は統治王と祭祀王が話し合い、上手く国をお造りになったそう、今なら、内閣、官僚?祭祀王の言う注意を聞かなくなつた統治王が、暴君となつた例が秦の始皇帝。祭祀王徐福も日本に天孫降臨(経津主)?要は、ヨーロッパも日本の叡智が流れている?

日本の古事記には、2700 年前頃に(日本は皇紀紀元前 660 年となっております。神武天皇の以前の話。)2つの釣りの話があります。

天孫降臨する際の国譲り:建御雷神が「大国主命よ。汝ウシハクぞ、この国は我が皇子のシラス国ぞ。と天照大神が仰せ。」と迫り、

大国主命は「私は、天津神には逆らいません。ですが、その返答は 2 人の息子から、お答えします。」

建御雷神「では、その息子はどこにおる。」

大国主命「息子の事代主はミホノ岬に、鳥や魚を捕りに出掛けています。」とお答えになっています?

天津神(高天ヶ原)と国津神(葦原中津国)の戦争中に釣りをして遊んでいた?日本の原型の国王様が?しっかりとした釣り文化があった記述ですよ。現在も皇居に宮中八神としてお祀りされているそうです。仏教で恵比寿様、日本神道で八重事代主様です。釣りの神様とされています。

更に、有名な山幸彦と兄海幸彦の釣り針(鉤)の紛失による兄弟喧嘩。今の世の中で釣鉤無くしても、戦争になる程の喧嘩にならないでしょう。想像するに、鉤でなく、当時の手作り和製ルアー?なら分かる気がします。高校生の兄の 5,000 円のルアーを中学生の弟が借りて、失くしたらどうなるでしょうか?更に、鉤から全て手作り和製ルアーならどの位の喧嘩になるでしょう。殴り合いは必須ですね。鉄器(火造り)なのか、獣器製(削り出し)であったのか。更に、注目点が 2 点。鉤を失くして困っているのを海神様の処へ、失くした釣り鉤を探して頂けないものか頼みに行き、家来の魚に探して頂いたとあります。そして、海神様の娘、豊玉姫を嫁にしています。有名な豊玉姫の歌が問題です。

・阿加陀麻波袁佐閉比迦礼杼斯良多麻能岐美何余
曾比斯多布斗久阿理祁理(原文)

・赤玉は 緒さへ光れど 白玉の 君が装し 貴くあり
けり(漢文語訳)

・アカ ダマユ サエ ヒガ レジ シ ラジ ダマ キン
ガ ユ グシ タブ トク アルケル(カタカナ訳)

しかし、このカタカナで読んだのをシュメール語で日本語に訳すと「私の愛した夫よ、宮中の僧侶は(あなたが)病気だから祈祷をすると、布施をせがみます。私の大君よ、もっと度重ねて消息を聞かせて下さい。手紙を頂くのを、心待ちに致しております。」と普通に恋文になります。

先程の月読尊(ヨーロッパへ:月の方角を治めよ)と天照大神(日本へ:日の方角を治めよ)の話しにスムーズに繋がります。双方は伊弉諾様の兄弟です。山幸彦の奥様はシュメールの海神族の方?その時代に、確立された漁法がそれ以前の時代より存在した証拠。

シュメールの首都は、キ・エンギ(シュメール語で、葦原が生い茂る地の意味)

天皇の古き読み方は、スメラミコト(シュメール語で、シュメールの神の座に置く尊の意味)

我々日本人は、その知識伝統を知らず、学ばず、西洋文化を優先順位に勉強は可笑しいと、私は思います。

ニュージーランド・オーストラリアの先住民は、マオリ、アボリジニは白人ではありません。DNA検査では縄文人。日本人?です。更に、最初のアメリカ大陸の先住民のDNA検査では、縄文人の血が流れています。ホピ族の口伝に世紀末に昔別れた白い兄が救世主になり、戻って来てくれる。と言われているそうです。白い肌でなく、ホピ族に白衣を着せたら?神武天皇のお姿?髪型が一緒?なぜ?共に白人に支配される200年前まで、何千年も縄文人流、日本流?自然環境を守り続けています。縄文時代は10000年の継続です。マオリ、アボリジニの偉大なる長の肖像画!を見ると。いるな。こう言う顔した漁師さん。

その、日本は環境破壊問題?いつから?100年前から急に?明治維新頃?長州、薩摩主導の日本?李一族末裔?1500年前大化の改新?百済の出戻り組(兵庫、大阪の下町組が兵隊?上方が倭を?)?あれ?縄文人より日本は、C国、K国の方が増えてたのかな?

性格違うよな。スポーツ国際試合番組を見ても!

私が言いたいのは、JOFI内でも、ルール作りで先ず、アメリカ、ヨーロッパは可笑しいと思います。日本人なら、小学校に入学したら国語の勉強です。次に英語でしょう。

ルール、マナーを最初からガミガミと言って、抑えつけたらその子はルールは守る子になるでしょうが、釣り以外の楽しい遊びを選ぶでしょう。

子供は思いのまま、自由に伸び伸び育て、危ない線越えは、周りの親、大人が見てあげる。様な環境が良いのでは、ないでしょうか。

縄文時代を調査している先生によると、発掘される人骨からすると、とても質素な食糧に当たらない大量の貝塚、猪、鹿の骨、木の実が掘り起こされるそうです。

獲らないから、保護であり、未来へ残すルールではなく、旬を重んじて、その時期に同じに行動している獲物でも、禁漁期とし、複数種の骨が1つの層から出土されず、同じ獲物の層になっている事から、あえて獲らないようにしている節があるそうです。

サカナで言えば、乗っ込み時期を禁漁期かな。

ルールの考え、基本が違う。

1. キャッチ&リリース
2. 最小限リミット
3. 最大確保リミット
4. 魚種の選択
5. 以上ではなく、生殖、産卵期の重要性の把握、認識を大事にしている

私の考えは、以上のようなもので、釣りは、鬼手鬼心(釣技)を徹底的に追求だと思っています。それを行動し、沢山の師匠、先輩達に叱られ勉強させて頂きました。

話しを矢口先生に戻し、思い出してみよう。

大体こんな台詞でした。

三平「じっちゃん、オラ、今日 A 山超えた所に行っただ。そしたら、B 沼があって、そこに大きな魚影を見たんだ。すんげー、でけえだ。」

一平じいちゃん「そらあ、三平。B 沼のオロチと言われとる奴じゃな。1mを超えとららしい。」

三平「オラ、アイツを釣ってみてえ。」

一平じいちゃん「三平、B 沼に行くには途中で険しい所があるから、気を付けて行くんじゃぞ。」

三平「うん。じっちゃん、わかった。明日、ちよつら、行って来る。」

三平「あんな、でつけえの釣ったら、ゆりっぺ腰抜かすだろうな。」

先生の台詞ではありませんが、大体思い出しますとこのように脳裏にあります。

ルールは、一平じいちゃんの安全だけです。

ブルーマーリンの章でキャプテン・エイハブとの勝負に大会におけるルールがありました。魚紳さんが説明されたかと思えます。

ルールが先か、心が先か。安全管理なのか。JOFIとして、今後の未来を、皆様とお考えを検討していきたいと思えます。

越中島釣友会創立 20 周年記念第 21 回 大会報告

木津 光永

フィッシングマスター登録番号第 272 号の木津光永です。

私が現会長を務める越中島釣友会は 2002 年に結成されて今年 11 月 23 日に 20 周年を迎えました。

当会は月 1 回の釣行会を基準に毎年創立記念日前後に釣大会を行い、今年は 11 月 13 日(日)に茅ヶ崎港のちがさき丸を仕立て、創立 20 周年記念第 21 回大会をイナダ～アマダイ五目釣り大会を実施、表彰対象となる会員 8 人の他にビジター 2 人が加わり、10 人での釣行会でした。

大会は、イナダ、アマダイ各 1 尾の合計寸法を競って行い、1 位～3 位、ブービー賞、外道賞を設けました。

大会現場への交通手段は、必要最小限の化石燃料使用も課題に取り入れ、会員のマイカー 2 台に 10 人が乗込み午前 4 時に越中島を出発、牡丹、三好経由で参加者を拾い、木場 IC より首都高速へ上がり、羽田線、横浜新道、藤沢バイパス、国道 1 号経由で茅ヶ崎市内のセブン 11 で会費徴収、茅ヶ崎港に 5 時半着でした。

今回の仕立船は第 18 ちがさき丸で船長は米山時晴さん、同釣船屋の創始者で、昼前から南風が強まる予報が出ていたので沖に出なければならぬアマダイ釣りから先に始めようということで 6 時半に出港、航程 15 分の茅ヶ崎沖水深 78m で開始しましたが、海上は既に南南西の風が 6～7m 吹いていて徐々に強まってゆく気配、先ずは左舷トモの松本さんがイトヨリダイ 27cm 級を釣り上げ、アマダイ 1 号は多田さんの 27.5cm、船は 1 流し 30 分のペースで東へ移動、強風警報で早上がりの合図が出た 10 時 10 分までに 10 人中 7 人がアマダイの顔を見て、サオ頭は 4 尾釣った多田さん、海況悪化でイナダ釣りには行きませんでした。

大会結果は下表の通り、外道にはイトヨリダイ多数に、サワラ、アジ、アオハタなどの良型も出ました。

No	名前	釣座	検量結果	順位	主な外道と寸法
			(cm)		各自が選んだ1尾
1	木津 光永	右3	0		アカボラ
2	井上 鉄男	右2	0		オコゼ、エソ
3	多田 幸男	右トモ	35.5	1位	アオハタ40cm
4	木村 正宏	左3	33.5	2位	イトヨリダイ
5	江原 規夫	右1	27.5		イトヨリダイ
6	松本 早苗	左トモ	0	ブービー	イトヨリダイ28.5cm
7	原田 能尚	左1	29.5	3位	サワラ50cm
8	原田 真美	左2	28.5	外道賞	アジ33cm
9	白木 誠	右4	29.5	対象外	ウミヘビ
10	菊池 守	左4	30	対象外	沖アナゴ



大会当日の実釣写真
(フィッシングインストラクター菊池氏)



アマダイ釣りのイメージ写真(木津)

これまでの釣りを振り返って

林 健二

釣りインストラクターになって 3 年、今年は所用と重なってしまい、多くの活動には参加できなかったが、子供たちとの釣り教室に参加させてもらい、自分が釣りを始めたころのことを思い出しながら、一緒に釣りを楽しませてもらった。

確か、一番最初に釣りをしたのが小学校 3 年の時だったと記憶している。山中湖に旅行に行ったときにワカサギを岸から釣ったのが最初だ。キラキラ水辺に光る魚が見えて、数は多くなかったが、数匹のワカサギが釣れた。そこから徐々に釣りの世界に引き込まれていった。

通っている小学校の近くに釣具屋があり、そこで 3m の振出竿を買った(今も大切に保管している)。家で伸ばしては縮め、縮めては伸ばし、本を見ながら糸の結び方を練習し、釣りに行く日を楽しみにしていた。

父と飯能まで行きヤマベを釣ったり、潮来でマブナ釣りを楽しんだりした。叔父にハゼ釣りに連れて行ってもらったのも鮮明に記憶している。初めてリールを使った釣りをして、興奮した一日だった。不思議なめぐり合

せで、今、その港の近くに住んでいる。

学校の近くの釣具屋が店じまいをしてしまったころ、当時は近くの大型スーパーや百貨店にも釣具コーナーがあり、ルアーが並んでいて、興味がルアーでのブラックバスフィッシングに移っていった。釣具屋に並んでいる道具や来店者を見るとちょっと大人たちの釣り、という感覚もある中、中学では周りの友達もルアーをやり始めていたころだ。だが、このころ、釣果としてはさみしい時期であった。釣り雑誌に掲載された電車で行ける野池をあちこち行っていたのだが、まったく釣れない…。それでも、つまらないと思ったことは一度もなく、どんだんのめりこんでいった。

高校のころ、雑誌でフライフィッシングが記事になっていて、気になりだし、ルアーより餌に近くて釣れそう、という単純な動機からセットを買い、昔ヤマベを釣りに通ったところでやり始めたらハマってしまった。

しばらくヤマベのフライフィッシングをやっているうちに、アルバイト先の店員さんがフライフィッシングをやっているとのことで、色々教えてもらうようになった。バイトが終わると喫茶店でヤマメの話、モンカゲロウの話、とても楽しそうに話してくれて、私も興味津々と聞いていた。そして、いよいよヤマメ釣りに連れて行ってもらうことになり、初めてフライでヤマメを釣った時の喜びは今も忘れない。魚がつくところ、毛ばりの流し方など色々教えてもらい、私にとっての師匠となり、今もその人に教わったことをベースに釣りをしている。

師匠はある日突然、会社を辞めると言い、どうするのですか？と聞いたら、もっと釣りをするために北海道に移り住む、と言う。驚いた。その後も連絡を取り合い、私も何度か北海道に行かせてもらい、ニジマスの引きの強さ、カラフトマス、オショロコマと北海道ならではの釣りは、これまた驚きの連続だった…。

社会人となり東京の自宅から栃木県、山梨県、福島県とヤマメを求めて徐々に遠くの川に行くようになり、往復 8 時間釣り 3 時間も苦にせず、川を巡っていた。

2020 年の会報にも少し書かせていただいたが、私は転勤のため秋田で 3 年間を過ごした。自宅から 30 分程度のところに溪流があり、フライフィッシングを楽しむことができた。またこれまでほとんど淡水の釣りばかりであったのだが、海も 15 分のところということもあり、溪流シーズンが短い分海釣りにも足を運ぶようになり、また道具が増えてしまったのもこの転勤がきっかけだ…。「釣りの幅が広まった」の方が聞こえは良いか。

秋田の釣り経験で何よりも独特なのはハタハタ釣りだった。真冬 12 月の 2 週間、接岸するハタハタを真夜中、吹雪の中堤防から竿を出す(当然気温は零度以下)。人口の少ない秋田といえども、この時ばかりは堤防も隙間がない(本当に肩を並べて釣るイメージ)。黙々とサビキを上下させると釣れてくる。最初の年は情報もなく、どうやって釣るのかも分からない中、見様見真似で始めたが、3 年もいると慣れたものになる。ちなみにハタハタは秋田の県魚であり郷土料理として美味しくいただける。

秋田から戻ってきて、今は神奈川に住んでいるが、溪流と海の二刀流は続けている。ただ、海辺の堤防で年々立ち入り禁止が増えているのは悲しいことである。

自分の釣り 40 年を振り返ってみたが、釣りの楽しさを教えて下さった方々に感謝するとともに、私も同じようにこの楽しさを子供たちに伝えていきたいと思う。釣りを続ける子もいれば、もちろん続けない子もいるだろうが、それでも一度でも釣りを経験して自然と触れ合うことは何かしらの思い出になるのだろうから、大切な時間として釣りを楽しんでもらいたいと思うところである。そして、みんなが楽しく釣りができる釣り場が減らないことを願いたい。

私自身、これからも皆様から色々なことを教わりながら、さらに釣りの幅を広げられれば、と思う。今後ともよろしくお願いたします。

海のボート釣り～魅力と留意点～

藤倉 聡

子供の頃から色々な釣りをしてきたが、ここ数年海でのボート釣りにはまっている。今回は、海釣りを前提にレンタルでのボート釣りの魅力と留意点などを記したい。さらには一押しポイントと筆者が執筆している「TSURINEWS」のサイトもご紹介。



<主なボートの種類>

ボート釣りとは、主に手漕ぎボート、免許不要艇、要船舶免許船の 3 つに分ける事が出来るので順を追って簡単に説明しよう。

- ・手漕ぎボート…手漕ぎボートとは言わずと知れた人力でオールを漕いで進むボートのことである。船舶免許が無くても利用できる事と料金が安いのが最大の魅力だ。ただ、体力の消耗が大きい。

・免許不要艇・・・エレキもあるが、一般的には 2 馬力船外機付きのボートの事で、メリットは船舶免許不要で、エンジン付きの為ある程度の沖まで行くのがラクチン♪しかも要船舶免許のボートと比べてリーズナブル。

しかしボート店にもよると思うが、保有している数が少なく早目に予約しておかないと借りることが出来ない可能性がある。また手漕ぎボートと比べて若干割高。

・要船舶免許船(船外機付きボートなど)・・・こちらは比較的大きいボートの為、荷物のスペースなどに余裕があり釣りやすい。またパワーがあり、かなり沖まで出られることにより狙える対象魚も増えるのが魅力的だ。しかし、当然船舶免許がないと借りられない事に加え、免許不要艇同様に早目の予約が必要だ。レンタル料金は相対的に割高である。



<魅力>

数あるボート釣りの魅力を、筆者の独断と偏見で述べて行きたい。

・自由度の高さ

ボート釣りの魅力の中でも特に「自由度の高さ」は特筆したい。

ボート店の営業時間内なら出船と帰港時間は基本的には自由だ。

またタックルについても、乗合船と違いオモリや PE ラインの号数も気にしないで釣りが出来ることも気楽でよい。

ロッドやリールに関しても、乗合船であまりにアンバランスだと船長や常連の方に白い目で見られかねないが、ボート釣りではそのような心配も無用だ。例えばキス竿 に水深系付きの中型両軸リールを堂々と使用できるのも嬉しい所だし、ジギングにブ

ラビシもセットしてコマセを撒いても誰にも文句を言われない。常識外れの発想が釣りの魅力を無限大にしてくれるのもボート釣りの大きな魅力である。

・手前船頭

釣り全般に言える事だが、ポイント探しはボート釣りでもキーポイントの一つ。自分だけの穴場を探し当てた時の満足感と言ったら言葉では言い表せない嬉しさがある。魚群探知機を駆使してポイントを見つけた時には、高額をはたいて買って良かったとつくづく思うこと間違い無し。

・何が釣れるか分からない楽しさ

ポイントを見つけたとしても釣り上げるまでは何が釣れるか分からない楽しさがある。乗合船などでは、隣の人が釣り上げた魚で自分にヒットした魚が大体分かりそうなものだが、ボート釣りはそうもいかない・・・。「仕掛けを上げてみてのお楽しみ♪」だ。



・水遊び感覚・解放感

これもボート釣りの大きな魅力の一つだが、乗合船などよりもボートの方が水面までの距離が近く、海との一体感を強く感じてまるで水遊び感覚で楽しい。

さらに釣りをしている最中、基本的にエンジン音がないので静かでのんびり釣りをする事が出来るメリットもある。エンジン音の代わりにラジオを聞きながら釣りをするのも少しオツな気がする(電波が入れば・・・)。

そして大海原に一人(仲間)だけと言った都会の喧騒からの解放感に浸れること間違い無し。いくら周りに同じくボート釣りの方がいても、混みあった堤防での釣りや乗合船のそれとは訳が違う。

・コストパフォーマンス

料金は乗合船よりも安く、しかも防波堤などから釣るよりも大物・小物問わず好釣果の可能性が高い事に加え、上述のメリットを考慮するとコストパフォーマンスの面からお勧めできる。

＜留意点とその対策＞

よりボート釣りを楽しむために、留意点やその対応策についても記しておこう。



・波風に弱い

予定を立てて、天気予報が晴れだとしても風が強いと出船不可という事がよくある。

実際、筆者も晴天の予報に浮かれていると、前日ボート店から「風が強いので明日は無理です。またお願いしまーす」と言った連絡を受けて、幾度も泣かされた経験がある。

出船不可になった時の為に第2第3の釣行プランを立てておくと、スムーズに予定変更が出来るのでお勧めだ。また、釣りの最中に天候が急変したら安全第一で早めに岸に戻る事。

・船が狭い

大型の船外機付きのボート等は別として手漕ぎボートは立つと危険なので、終始同じ姿勢で釣りをする事になる。長時間だとかなり疲れるので無理のない釣行プランを計画したい。また、自由度の高さ故に色々なタックルを持ち込みたくなるが、狭いので持ち込めるタックルにも限界があるので気を付けよう。

・トイレがない

想像に難くないが、トイレが無いのは困ったものだ。対策として、筆者はなるべく利尿作用のない麦茶などのノンカフェイン飲料を飲むようにして、なるべく

イレに行かないで済むようにしている。

・自由度が高過ぎ

自由度の高さはメリットでもあるがデメリットでもある。自由度が高いと「あれもこれも」と色々なターゲットを狙ったりして、結局対象魚や釣り方を絞れず、結果釣果が上がらない事がよくある。対策としては欲張りすぎないことに尽きる。

＜まとめ＞

大海原でマイペースに釣り出来るボート釣り。天気の良い日には一日竿を出しているだけで満喫出来る事間違いなし。ライフジャケットの着用は勿論の事、安全には十分に気を付けて楽しみたい。

＜一押しポイントと「TSURINEWS」執筆記事のご紹介＞

・沼津 我入道

沼津のボート釣りでは特に木負が人気だが、筆者のボート釣りの一押しポイントは沼津我入道からのヒイチ根およびその近辺だ。こちらは、ポイントが絞りやすくターゲットも豊富。手漕ぎボートでも数分漕げば水深40～50メートルのポイントまで到着。

マダイ、アマダイ、クロダイに加えて、青物ではカンパチ、スマガツオ、ヒラソーダ、ワラサ、イナダ、根魚はマハタ、オオモンハタなども良く釣れる。タチウオ、コチ、キス、アジ、イトヨリなども狙えるので、是非一度足を運んで頂きたい。

ボート店：「貸しボートみさお」TEL090-3300-3572



・「TSURINEWS」執筆記事のご紹介

「TSURINEWSライター」として、我入道でのボート釣りの記事を始め、HOW TOやレシピなど様々な

記事を執筆しているのでサイトをご紹介します。

「TSURINEWS.JP/?s=藤倉聡」または「TSURINEWS 藤倉聡」で検索可能。

是非皆様のご参考にしていただければ幸甚である。

釣りを始めてみよう

本村 慧介

ここ数年、釣りの幅を広げるべく色々な釣りに手を出している。その内のいくつかをこれから紹介するので興味を持って頂けたり、参考になるものがあれば嬉しく思う。

<芦ノ湖ルアー・フライ限定特別解禁釣り大会>

釣行日…2021/3/1、2022/3/1

毎年 3/2 への通常解禁の前日 3/1 に開催されているのがこの大会である。「大会」というと入門者にとって敷居が高いものを感じられてしまうかもしれないがそのように構える必要はない。大物を釣って入賞すれば賞品があったり全員平等に参加賞があるから「大会」なのであるが、単純に「この日から釣りができる」という考え方で構わない。好きな時間に来て(要受付)自分のペースで釣りをして好きなタイミングで帰って良いのである。

レインボートラウト(ニジマス)・ブラウントラウト・イワナ等、大量の魚が放流されており、魚種ごとに表彰がある。時合いにうまくはまればブラウントラウトが無限に釣れ続けたり、時折り大型のレインボーが顔を出してくれたりする。ただし近年は減水が激しく岸から遠目の方に魚が溜まっていて遠投しても届かない場合も多いので注意されたい。私は遊覧船の発着場付近で水深があるポイントを狙うようにしている。

私のタックルはエアトラウト用のタックルに一般的なスプーンである。投げてゆっくり巻いてくれば良い。

魚がスレる前に、3/1 以降早めの釣行をお勧めしたい。



<新潟方面 日本海側サゴシ・イナダ等>

シーズン…春～初夏

寒さが厳しく、海も荒れていて冬の間はなかなか釣りが難しい当地であるが、例年 3/1?新潟東港第2東防波堤管理釣り場がオープンしシーズンが始まる。

回遊魚なので年によって時期に多少のズレがあったりするのでネット等で情報を入手して釣れているタイミングで釣行したい。

ボートで出ると 70~90cm ほどのサワラクラスが何十本と釣れるようだが、サイズは 40~60cm 程度と落ちるものの堤防からでも十分楽しむ事が出来る。

タックルはシーバスタックル。ルアーはメタルジグやミノー等。最近ではすっかり人気の釣りとなり専用ルアーも多く発売されているが、100 円均一のメタルジグでも十分釣れる。

釣り方は遠投してボトムをとり、ジャークを入れながらリトリーブ。段々ルアーが浮いてくるので再びボトムまで落としての繰り返し。

時合いがくれば堤防中で竿が曲がってお祭り騒ぎに。もちろんラインが絡むオマツリではなく魚がたくさん釣れるお祭り騒ぎである。歯の鋭い魚でラインを切られる事もしばしばであるが、時合いを逃さないようにしたい。

サゴシ・サワラの群れが抜けると入れ替わるようにイナダ・ワラサの群れが入ってくる。タックル・釣り方はほぼ変わらないが、アミエビ(コマセ)を偏食してルアーにチェイスはあるもののどうしても口を使ってくれない事もある。そんな時はサビキの出番。カゴを上につけて仕掛けは水面直下~1.5m ほど。ゲストのコンシロのツツンというウキの反応とは違い本命は勢いよく水中に引っ張られていく。冷凍のキビナゴを餌にして遠投カゴ釣りでワラサ級が複数釣れた事もある。ルアーはちょっと…という方でもサビキ釣りなら入門者にもお勧めである。他にゲストとしてアジ(こちらが本命の人も多い)やサバなども釣れる。



<タチウオジギング>

シーズン…ほぼ通年(地域による)

私は東京湾や駿河湾で楽しませてもらっているが、東

京湾ではデイゲーム、駿河湾では夜釣りが一般的。

タックルはライトジギングロッドに小型の両軸リール。
ルアーは水深にもよるが 100g 前後のメタルジグ。

釣りはワンピッチジャークが基本となるが、ゆっくりタダ巻きや、スイッチが入るとフォールで先を争うように食ってくる。

ルアー釣り以外にも天秤仕掛けの餌釣り(餌はサンマやサバの切り身)、テンヤ釣りがある。

魚体も美しく食べても美味しい魚なのでお勧めである。



<シイラ・カツオ・キハダマグロ等オフショアキャスティングゲーム>

シーズン…夏～秋

私が楽しませてもらっているエリアは相模湾・駿河湾。シイラはダイビングペンシル・ポッパー・メタルジグ等のルアー釣り、カツオ・キハダはルアーの他に餌釣りもあるがここではルアー釣りについて述べることにする。

まずは魚を探して船で走り回る事になる。それで群れが見つからないとほぼクルージングだけで終わる事になってしまう。

シイラは漂流物について表層付近に居るので船長と協力して海上に浮いている漂流物を探す。シイラを見つけたらよいよキャスト。大きいルアーには大きいシイラ、小さいルアーには小さいシイラという傾向があるようだ。トップに「バシャッ！」と出る瞬間は迫力もあり実に気持ちがいい。1匹の魚をかけて引いてくると群れで寄ってくる。船の周りが巨大なシイラだらけになった光景は圧巻だ。

カツオの場合はルアーに対して一気にシビアになる。ベイトが小さいとルアーも小さいものでなくてはならない。シルエットの小さいタンゲストンのジグでないと釣れず、ほんの少し大きくなっただけで見向きもしてくれない。カツオの群れにキメジ(キハダの幼魚)が混じっている事も。

魚をかけたら取り込みまでは出来るだけ早く。またついていると同船の人達に迷惑がかかってしまう。そんな訳でタックルはオフショアキャスティング用の専用タックルで。リールもパワーのあるものを。とにかくこれらの魚は引きが強い！この強烈な引きの魚達とのファイトがこの釣りの醍醐味だ。



<東京湾ボートシーバス>

シーズン…秋～冬

東京湾ではビッグベイトと呼ばれる大きいルアー(30cm を超えるものも!)を使った「コノシロパターン」のシーバス釣りが人気である。コノシロパターンとなるとシーズンは秋?冬頃となるのだが、「バチパターン」や「イワシパターン」の時期もあるので「シーバスのシーズン」という事になると通年と言っても良い。

ビッグベイトを投げる場合には XH~XXH クラスのベイトタックルが一般的。ミノーやバイブレーションであれば M クラス前後のスピニングタックルという事になる。

シーバス用のルアーは専用のものが非常に多く発売されているのでミノーやバイブレーション等自分が使いやすいと思うものを使い込んで「得意ルアー」というものを幾つか作ると良いだろう。

ビッグベイトは更に慣れが必要となる。基本的にトップにドカン！と出て気持ちいいそうなので？そしてビッグベイトに食ってくるのは間違いなく巨大なシーバスなのでチャレンジする価値はあるだろう。



まだまだイカやタイラバ等紹介したいところだが今回はここまでにする事に。紙面の都合上、専門用語の解説等は省略させていただいたので難しく感じてしまった方もおられるかもしれない。もしわからなければネットで検索等していただければすぐに解決するはずだ。

また、色々な釣りに手を出そうとするとそれぞれの道具を揃えるのも大変である。しかし、船釣りならばたいいてレンタルタックルも借りる事が出来るし、初心者である事を伝えて教えるを乞えば船長をはじめとするスタッフさんが親切に教えてくださるので是非一步を踏み出して欲しい。

この記事を読んで釣りを始めてみようとか、これまでとは違う別の釣りに挑戦してみようという方がおられたならこの上の喜びはない。安全第一でマナーを守って楽しんでいただきたい。

初めてのイトウ釣り

鈴木 等



2022年6月に北海道に釣りに行った。大自然の中フライフィッシングで野生虹鱒を釣るのを楽しみに行ったのだが、最初の一週間は生憎の雨続きでどの川も増水し、とても虹鱒釣りにはならなかった。そこで汽水域でのイトウ釣りに初チャレンジしてみることにして、オホーツク海側のイトウが生息する川に向かった。イトウ釣りは予定していなかったもので、持ち合わせのダブルハンドロッドやソルト用シングルハンドロッドで釣りをする事にした。

といっても、イトウのことは全く知らない素人、どこでどのように釣ったら良いか分からないので、近くで釣りをしている方に次々と声をかけては色々尋ねて回った。皆さん親切な方ばかりでポイント、流し方、釣れているフライなどを詳しく教えてくれた。取りえず持ち合わせたリーダー、フライで釣りをした初日、時折ボイルと呼ばれる大型魚の小魚の捕食が起きていた。近くで釣っていた方によればイトウが小魚を食べているのだという。

しばらくすると、その方は50センチほどのイトウをキャッチ。こちらの期待もぐっと高まったが、その後数時間なんの反応もなく時間が過ぎた。初夏の北海道の長い日もようやく夕方の気配が感じられた時、突然のあたりがありロッドが大きく曲がった。しかし、魚が走った直後に急に重みが消えてなくなった。イトウだった気がしてならない。

二日目は同じ川の反対側から釣ってみたが反応なく。午後に昨日バラした付近に移動、すると近くで釣っていた方が遠目にも大魚とわかるファイトを始めた。長いファイトの末、見事にキャッチ。98センチの大イトウであった。膝上程度の浅場で釣れたという。小魚を追って浅場に入ってくるイトウを狙ったとのこと。大魚の存在を目の当たりにして、やる気満々で午後の釣りをするが、反応無しで一日が終わった。

翌日は暴風雨の天気となり釣りにならなかった。このまま諦めることも考えたが、もう一日だけチャレンジしてみることにした。釣りができない日は稚内の釣具屋で情報収集や、リーダーやフライの材料を購入し、地元の方に教えて頂いたフライを巻いて翌日に備えた。

翌日の三日目は初日と同じところに入った。既に近くで数人が釣りをしていた。

新たに巻いたフライをダブルハンドロッドで一投一投気持ちを入れてキャストするが、なんの反応も無く時間が過ぎた。他の釣り人にもあたりは無いようで一人、また一人去り、昼頃には広い釣り場に自分一人だけになった。岸に座って昼食を取りながら川を静かに眺めていると、かけ上がり近くの川面に時折三角の波が走ることに気付いた。風で起きている小波の中の三角波なので分かりにくいだが、水中を大きな魚が泳いでいるようだ。一時間ほどの昼休憩の間にその波を4、5回目にして大魚の回遊を確信した。他の釣り人が去り自分も昼休憩にしたことで、釣り場が静まり岸際に現れたに違いない。そこで水面を騒がすキャストになるダブルハンドロッドは止めにして、シングルハンドの9番ロッドにフローティングラインを取り付けた。そしてかけ上がりから離れた川岸に姿勢を低くしゃがみ込み、いつでもキャストできる体勢で回遊を待った。10分以上過ぎただろうか、右斜め方向から待っていた三角波がこちらに向かってきた。緊張の中左斜め前方に低姿勢のままキャストして、三角波とフライが丁度クロスするようにリリーブを始めた。するとクロスポイントの近くで三角波がフライの方向に曲がっていった。直後にラインが張り詰めロッドが強力な力で引き込まれ、リールが唸りを上げラインが出ていった。魚は水底深く沈み左右に走る。想像以上の大物であることを感じた。魚が走る時にラインが水草を刈って重みが増す。地元フライフィッシャーのアドバイスのとおり02xのリーダーにフライ直づけにしておいて良かった。時々、ロッドに衝撃があり魚が大きく首を振っているのがわかった。その度にバースプレックが外れたり、鋭い歯でリーダーが切れないことを祈った。ライン

の出し入れをするファイトをしばらくするうちに水面に巨体が現れ、目と目があった。イトウはそれを感じたのだろうか大きく沖に走った。それもなんとか凌ぎいよいよランディングだが、持参した 60 センチネットには入らない。幸い満潮のおかげ川岸に足首程の浅瀬が広がっていたので、そこに誘導した。

浅瀬に入ったあとは観念したのだろうか、静かに岸に近づいてくれた。鋭い眼光でこちらを睨みながら、疲れを癒すかのように静かに口とエラを開け閉めしていた。体長 95 センチ、初めてのイトウは期待を超えた大物であった。イトウは成長が遅くこの大きさになるまで 10 年ほどかかるという。このイトウは既に川と海を 10 回程往復しながらここまで成長したことを考えると、とても単なる一匹の魚とは思えず、水中世界を知り尽くした賢者の風格を感じた。

イトウへのお礼を口にしながら丁寧にリリースしてこの賢者と別れ、今回のイトウ釣りが終わった。全くの素人の初挑戦、地元の親切な釣り人のおかげや運もあって、望外の結果を経験できた。また、来年も挑戦しメーターオーバーを目指したい。



釣り競技のオリンピックのような大会

石村 美佐子

釣りはスポーツなのだろうか？この半世紀、数名のテンカラ師以外、内水面で捕獲した魚を売りそれを生業としている人を、またはその収入が主な利益となっている会社を私は知らない。現在、釣りはアウトドア・スポーツとして、一般に楽しまれているようだ。しかしながら、釣りはオリンピック競技の種目には無い。

近年、様々なスポーツで世界大会が毎年行われているが、釣りにも世界大会がある。オリンピック憲章を基定にして採択されたスポーツフィッシングのアスリート憲章を尊重している釣り人達が、国を代表し、メダル獲得を目指して競い合う大会である。ここでは、その一例として、50 歳以上の男性もしくは女性アングララー 5 名からなるナショナルチームによる、FIPS Mouche ワールド・マスターズ・フライフィッシング・チャンピオンシップについて紹介する。



第 8 回 FIPS-Mouche ワールド・マスターズ・フライフィッシング・チャンピオンシップ
2023 年 9 月 24 日から 30 日
カナダのカムループス市で開催予定

1 日目は、13 時からチーム・エントリーが開始され、バッジや贈り物が手渡される。14 時にはキャプテン・ミーティングが開催され、キャプテンが数字を記載したピンポン玉のくじを引くことにより各国のチームに割り振られる数字が、A から E の文字を記載したピンポン玉のくじを引くことにより選手に割り振られるアルファベット 1 文字が決定する。

さらに、この数字とアルファベットの組み合わせに基づき、各選手は、セッション毎に、川のセクターではどのセクションを釣ることになるか、湖のセクターではどのボートに乗るかが決定される。そして、セッション当日、バスがセクター についた時点ではじめてその結果が各選手に発表される。キャプテンは、チーム ミーティングを開催し、チームの数字と各選手のアルファベットを報告する。そして、グループ毎に決定された色のストラップを選手に渡し、各自のバッジのストラップを新しい色のものに付け替えてもらう。バッジは、開催中、常に着用する。ストラップの色を一見すれば、どのグループかを判別できるので、早朝の暗がりでも、それをチェックするだけでも自分の乗るバスを間違えることは無い。



16 時には、市中に移動して、そこからオープニング・

セレモニー会場まで、国旗を掲げ、チーム一団となってパレードを行う。

オープニング・セレモニーでは、開催国特有の歌や踊りが披露された後、FIPS-Mouche の国旗が掲げられ、その理事が大会オープニングを宣言する。その後、夕食パーティーがあり、そこでも歌や踊りが披露され、皆でオープニングを祝う。



2 日目の早朝、選手はグループ毎に 5 台のバスに分乗し、それぞれが 5 箇所のセクターに向かう。そこで朝 9 時から 3 時間の競技セッションが行われ、その付近で昼食を取った後、ホテルに戻る。5 日間で 5 つのセクターで 5 回戦、すなわち 各選手は毎日異なるセクターで C&R の釣りをを行い、釣った魚(2023 年 Master WFFC では、主にレインボー・トラウト)はそれぞれ体長が計測され、計測された体長に基づき算出されるポイントにより順位が確定する。



行き帰りのバスの中では他国選手と一緒にあり、昼食のテーブルでは他国選手と同席できる機会もあるので、他国選手と意見交換をすることや、ときによっては友人となることも可能である。また、夕食では大広間でチーム毎にテーブル囲み、楽しい食事ができる。

すべての競技が終了した後、受賞式前にはホスト国が準備する自然保全に関するシンポジウムが開催される。Q and A セッションも時間が許される限り用意されており、各国の事情や意見も飛び交い、問題解決に到

るときもある。



受賞式では、個人優勝者と優勝チームに、それぞれ金・銀・銅メダルと銀の皿やトロフィーなどを授与し、それぞれの授与の後には国家斉唱が行われる。続いて FIPS Mouche 理事が、次回開催国を発表し、開催国フェデレーション代表にその知らせが描かれた木の皮の巻物を手渡し、開催確約をとり、FIPS-Mouche の旗を手渡す。そして、閉会宣言をして、セレモニーが終了する。

その後、コントローラー(審判)や、セクターを用意した地元のクラブなど大会関係者全員が参加する晩餐会が催される。一番大きな魚を C&R したアングラーにも賞が渡され、セクターを管理し、昼食を作ってくれた地元クラブの人々にプレゼントを贈呈し、感謝の気持ちを伝えたりして、晩餐会は大いに盛り上がり、チーム間の親睦を深められる楽しい会になる。



翌日は朝食後、皆それぞれ帰途に就く。

(注)文中の写真は過去の WFFC のものを使用しています。

2023 年第 8 年次 World Masters Fly Fishing Championship は、12ヶ国から

12 チームが参加予定で、第 2 年次 World Ladies Fly Fishing Championship と

一緒に開催される。

これからの内水面漁場管理主体は“漁業協同組合”という名称でいいのか？

石井 利明

令和 5(2023)年は 10 年に 1 度の漁業権免許更新年である。

平成 26(2014)年 6 月の、第 186 回通常国会において、議員立法により「内水面漁業の振興に関する法律」が成立して初めての更新にあたる。

この法律の第 2 条の基本理念には、以下のように記されている。

内水面漁業の振興に関する施策は、内水面漁業が水産物の供給の機能及び多面的機能を有しており、国民生活の安定向上及び自然環境の保全に重要な役割を果たしていることに鑑み、内水面漁業の有する水産物の供給の機能及び多面的機能が適切かつ十分に発揮され、将来にわたって国民が、その恵沢を享受することができるようにすることを旨として、講ぜられなければならない。

この多様性機能とは、以下のように定義されている。

「多面的機能」とは、生態系その他の自然環境の保全、集落等の地域社会の維持、文化の伝承、自然体験活動等の学習の場並びに交流及び保養の場の提供。

この定義では、内容がぼやけている。東京海洋大学の工藤貴士教授は、私が出席した講演で以下のようにまとめられていた。以下引用する。

漁場管理の目的は漁場の公益性を高めること。

内水面漁場の公益とは？

■内水面漁場の公益の多様性

- ・組合員による漁業とそれによる水産物供給(私益+公益)
- ・組合員による自給的採捕(釣って食べる楽しみ)
- ・遊漁者による趣味としての釣り(釣って食べる楽しみ)

■内水面漁場の自然環境条件・社会条件の多様性

- ・湖沼、河川(上流・中流・下流)
- ・原生自然、都市河川、観光地、過疎地、サケ遡上河川

■内水面そのものの公益性(治水・利水)の重要性

■内水面漁場の公益の多様性

そして、内水面漁場の公益は多様であり、また漁場の自然環境条件と社会条件も多様であるため漁場の目指すべき姿も多様である。**海面漁業とは異なる漁場利用制度と振興法が必要。**(筆者強調)

私も「その通りだなあ」と聴いていた。しかし、漁協を取り巻く現状は厳しい。以前のように年金で比較的自由な時間を確保できる人たちは稀になった。今まで何とか漁協を成立させていたボランティア精神は機能しない。

とてもではないが、漁協は農水省(水産庁)どころか、文科省、国交省、環境省をも横断するような領域のハブを担えるような組織ではない。現実には元気なお年寄りに支えられて、多くが息も絶え絶えに活動している。

この現実を先ず理解するのは、一番の受益者である“釣り人たち”である。漁協からも発信しなければならない。

その上で、漁協が法律で求められる機能を担える、理想的な存在になるためには、ゼロから始めなければならない、と私は考える。困難は山積みだ。手あかのついた名前、“漁協”を背負って出発する事はない。

先ずは、法律に則った内水面管理主体にふさわしい名称を一緒に考える事から始めては、どうだろうか？

2022 年度活動実績

日付	活動実績
7/24(日)	令和 4 年度 秋山川アユ特設釣り場 渡良瀬漁協催
9/4(日)	ねりま遊遊スクール(子供ハゼ釣り教室) 練馬区教育委員会委託
9/10(土)	アウトドアフィッシングスクール in 若洲 若洲シーサイドパークグループ協賛
10/9(日)	ねりま遊遊スクール(白子川の自然再発見) 練馬区教育委員会委託
10/22(日)	第 7 回「ファミリー釣り教室」(釣り指導・サポート) 若洲シーサイドパークグループ・(公財)日釣振東京都支部 主催
10/29(土)	ふるさと清掃運動会「荒川でちょっと良いことゴミ拾い」 ふるさと清掃運動会に協力参加

日付	活動実績
10/29(土)	ふるさと清掃運動会「荒川でちょっと良いことゴミ拾い」 ふるさと清掃運動会に協力参加
10/30(日)	懇親釣り会(ハゼ釣り)
11/5(土)	ヤマメ発眼卵 BOX 埋設 JOFI 西東京に協力参加
11/12・13 (土・日)	2022 年度全釣り協公認釣り インストラクター資格講習・ 試験 講師・スタッフを派遣
12/3・4 (土・日)	フライフィッシング・テンカラ 釣り講習会
1/20～1/22 (金・土・日)	釣りフェスティバル 2023 JOFI 神奈川に協力参加 (ニジマス釣りのサポート)、 JOFI の活動紹介、オンライン による情報提供 等
1/21(土)	釣りインストラクター・マスタ ー研修会 全釣り協主催
3/25(土)	ヤマメ発眼卵 BOX 回収& 稚魚放流 JOFI 西東京に協力参加
毎月第 2 土曜日	釣り場クリーンアップ作戦 若洲海浜公園釣り場におけ る釣り場クリーンアップ、及 び釣り指導

編集後記

長期にわたる COVID-19 の感染拡大も、ようやく落ち着きを見せ始めて来たかと思われていましたが、11 月に入り第 8 波の兆しも見え始め、一向に収まる気配が見られません。

本年度は、政府の大幅な規制緩和も進み出し、JOFI 東京としても、従来通りとまでは言えませんが、多くのイベントを開催することができました。しかしながら、まだまだ予断を許さない状況は継続していきそうです。

今までの経験から得た対策を講じて、感染対策に気を配りながら、安全・安心を重視しながら活動を再開していきましょう。

一方、例年同様、世界各国でも豪雨等による自然被害の甚大化が増加しております。

自然との共存が必須となる「釣り」というジャンルにとっては、切っても切り離せない脅威となり得ますので、天候変化の事前確認やライフジャケットの着用等の安全対策を講じた上での釣りを励行して頂けますよう、引き続き宜しくお願い申し上げます。

今回の会報も例年同様、特にテーマを決めずに執筆者の自由なテーマで原稿作成をお願いしました。

JOFI 東京の活動の再開もされてきているとは言え、まだまだ、個人の活動も思い通りとならなかった状況下での執筆になったのではないかと思います。

執筆者の皆様、会報発行にご協力頂きまして有難うございました。

本会報誌は皆様からの寄稿の様子を見て、適宜特集を組んで発行していきたいと考えています。

原稿は随時募集しておりますので、会員名簿を参照し広報部宛に E メールや郵送などでお寄せ下さい。

原稿の集まり具合によっては期限を設けて執筆依頼をすることもありますので、その際はご協力をお願い致します。(広報部)

東京都釣りインストラクター連絡機構会報誌 第 11 号

発行日 2023 年(令和 5 年)1 月 9 日

発行 JOFI 東京
(一社)全日本釣り団体協議会 公認
東京都釣りインストラクター連絡機構

編集 同上(広報部)

URL <https://jofi-tokyo.org/>

